

# 令和4年度 ふくしま学力調査 分析報告書

令和4年11月22日  
福島県教育委員会

## 1 ふくしま学力調査について



### 1 調査の目的

児童生徒一人一人の学力の伸びや学習等に対する意識、生活の状況等を把握する調査を実施し、教育及び教育施策等の成果と課題を検証するとともに、その改善を図るための方策を構築し、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

### 2 調査実施日

令和4年4月13日（水）

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のための学級閉鎖等により調査実施日に実施が困難な学校に限り、調査実施日を令和4年4月14日（木）から5月2日（月）までの任意の日に変更して実施した。

### 3 参加学校数・参加人数

(1) 小学校 402校

※ 義務教育学校前期課程及び県立特別支援学校小学部を含む。以下同じ。

(2) 中学校 215校

※ 義務教育学校後期課程及び県立特別支援学校中学部を含む。以下同じ。

(3) 児童生徒数（人）（質問紙を含むいずれかの教科を1つ以上実施した児童生徒の人数）

小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生
13,098	13,578	13,969	13,750	13,734

### 4 調査事項

(1) 教科に関する調査

- ① 小学校第4学年～第6学年 国語、算数
- ② 中学校第1学年・第2学年 国語、数学

(2) 質問紙調査

- 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

### 5 結果の活用について

(1) 児童生徒の学習改善に活用する

各学校は、個人結果票をもとに児童生徒に学習改善に向けたアドバイスを行う。また、個人結果票を保護者と連携するための資料とし、家庭学習の充実につなげていく。

(2) 各学校の授業改善に活用する

各学校は、返却された結果から児童生徒の「学力のレベル」や「学力の伸び」の状況を分析し、学力を伸ばした可能性の高い取組を校内で共有するなど学力向上のプラン等を見直し、今後の授業改善につなげていく。

## 6 「学力のレベル」と「学力の伸び」について

各学年ごとのレベルの範囲 (白が当該学年のレベルの範囲です)

レベル	小4	小5	小6	中1	中2	中3	レベル	レベル(3分割)	数値
	レベル12							レベル12	12-A 12-B 12-C
レベル11							レベル11	11-A 11-B 11-C	33 32 31
レベル10							レベル10	10-A 10-B 10-C	30 29 28
レベル9							レベル9	9-A 9-B 9-C	27 26 25
レベル8							レベル8	8-A 8-B 8-C	24 23 22
レベル7							レベル7	7-A 7-B 7-C	21 20 19
レベル6							レベル6	6-A 6-B 6-C	18 17 16
レベル5							レベル5	5-A 5-B 5-C	15 14 13
レベル4							レベル4	4-A 4-B 4-C	12 11 10
レベル3							レベル3	3-A 3-B 3-C	9 8 7
レベル2							レベル2	2-A 2-B 2-C	6 5 4
レベル1							レベル1	1-A 1-B 1-C	3 2 1

### (1) 学力のレベル

全ての問題に難易度を設定し、「どのくらい難しい問題を解く力があるか」を「学力のレベル」で表す。「学力のレベル」はレベル1からレベル12までであるが、測定は各学年7つのレベルで行う。なお、福島県で中学3年生は実施しないため、「学力のレベル」はレベル11までである。

さらに、1つの「学力のレベル」は3分割され、「学力の伸び」が詳細に分かる。例えば、同じレベル5でも、「学力のレベル」が高くなるとバーの位置が上がる。



### (2) 学力の伸び

集計対象となる児童生徒の「学力のレベル(3分割)」を数値化し、前回調査との差を計算する(例: 1-Cは“1”、11-Aは“33”)。

### (3) 「学力が伸びた児童生徒」の定義

「学力のレベル(3分割)」を数値化した数値が、前年度から1以上増加した児童生徒を「学力が伸びた児童生徒」と捉える。